

6 教育概要

| | |
|------------|----|
| 水曜勉強会実績 | 83 |
| 初期臨床研修医感想文 | 84 |

令和6年度 水曜勉強会実績

| 月 | 日 | 演題 | 講師名(敬称略) |
|----|----|---|--|
| 4 | 10 | 2024年度診療報酬改定について | NPO法人病院支援機構 勝又 美雪 氏 |
| | 17 | 令和5年度 リハビリテーション技術科活動報告 | リハビリテーション技術科 |
| | 24 | 令和5年度 プロジェクトチームWG活動報告 | プロジェクトチーム |
| 5 | 8 | 医療ガス安全講習 | クロックス株式会社 |
| | 22 | 輸血用血液製剤の取り扱いについて | 鹿児島赤十字血液センター 学術担当 |
| | 29 | 栄養障害の3例 | 院長 花田 法久 先生 |
| 6 | 19 | 血液透析について | 腎臓内科部長 有馬 隆弘 先生 |
| | 26 | アメリカ留学で得た経験 | 外科部長 山下 晃平 先生 |
| 7 | 3 | カンサーボード・臨床病理症例検討会(CPC) 「魚骨による消化管穿孔の2症例」 | 座長 副院長 藤田 浩 先生 臨床 外科部長 山下 晃平 先生 講師 熊本大学 大学院生命科学研究部 細胞病理学講座 教授 菰原 義弘 先生 |
| | 17 | 超音波内視鏡による診断と治療 | 消化器内科部長 荒木 紀匡 先生 |
| | 24 | 循環器科の紹介、高血圧症、心不全などの基礎知識について | 循環器内科部長 有永 豊識 先生 |
| 8 | 7 | ACPIについて | 消化器疾患センター 緩和ケア認定看護師 濱田 沙綾子 |
| | 21 | How to インスタ! (初歩編) | プロモーションWG |
| 9 | 4 | DMATについて | 院長 花田 法久 先生 |
| | 11 | 災害訓練について | 災害対策部会 |
| 10 | 16 | 医療接遇オンラインセミナー・基礎編 | 接遇委員会 |
| | 23 | 医療接遇オンラインセミナー・確認編 | 接遇委員会 |
| | 30 | 院内学術発表会 | 3病棟・中央手術室・薬剤部・診療支援部 |
| 11 | 6 | BLS(一次救急処置)研修会 | 救急外来スタッフ |
| | 13 | 医療安全推進週間キックオフフォーラム | セーフティマネジメント部会 |
| | 27 | 外見ケア(アピアランスケア)について | アデランス 小川 裕美 氏 |
| 12 | 11 | 全国自治体病院学会 in 新潟 参加報告 | 看護部長 妙圓園 和代 内科外来主任 山崎 なるみ 総務課長 今川 武 |
| | 18 | 看護事例発表会 1. 退院先決定における患者・家族との関わり 2. 心不全患者・家族への関わり | 看護科5病棟 前田 彩花 看護科内科 澤田 愛美 |
| | 25 | 職員のメンタルヘルス | こころ機構 |
| 1 | 15 | ACPの取り組みについて | 診療支援部長 杉野 博美 |
| | 22 | 認定看護管理者修了者 研修報告 1. ファーストレベル研修報告 2. セカンドレベル研修報告 | 看護科救急外来副師長 廣川 ゆかり 看護科消化器疾患センター主任 堂園 茜 看護科5病棟師長 野崎 純子 |
| | 29 | 電子カルテ更新について | 医療情報システム部会・南日本情報処理センター |
| 2 | 5 | 令和6年度上半期経営分析報告及びレポートの見方 | メディカル・データ・ビジョン 村山 氏 |
| | 12 | 2月16日の原子力防災訓練について | 放射線技術科 放射線安全管理監 中野 孝二 |
| 3 | 5 | 病理症例検討会 「抗酸菌感染症の症例とがん免疫療法が奏効した大腸癌の症例」 | 座長 副院長 藤田 浩 先生 臨床 消化器内科 大園 宏輔 先生 外科医長 松本 嵩史 先生 講師 熊本大学大学院生命科学研究部 細胞病理学講座 教授 菰原 義弘 先生 |
| | 12 | 褥瘡予防と管理について | 整形外科 皮膚・排泄ケア認定看護師 赤塚 ミエ |
| | 19 | 医療安全 業務改善活動報告会 | セーフティマネジメント部会 |
| | 26 | 令和6年度 PTワーキング活動報告 | プロジェクトチームWG部会 |

テーマ「一般外来研修を終えて」

初期臨床研修医 田原 明人



私は鹿児島大学病院初期研修プログラム初期研修医の田原明人と申します。この度、令和6年9月の1か月間、出水総合医療センターの小児科にて研修をさせていただきました。

研修医として1年半ほどの研修を積んでまいりましたが、そのほとんどは成人医療であり、小児診療については経験がほとんどない中、鈴東部長や今塩屋医長を中心に手厚い御指導をいただき、本当に感謝しています。外来担当の看護師をはじめとしたコメディカルの方々が患者さんやその親御さんに常に寄り添い、傾聴し時に毅然と適切な指導をする姿を現場で体感できたことも非常に大きな学びとなりました。それぞれが専門性を活用しながら協調している現場をとおして、自分が医師としてどこに専門性を持ち、現場でいかにしてふるまうべきかを改めて考えるきっかけとなりました。

また、現場において、限りある医療資源や人的リソースをいかに最大化することによって、患者さん、ひいては地域へのアウトカムを維持していくのかということに日々奮闘されている姿がありました。出水という地域がどのような医療システムの中で成り立っているのか、阿久根や水俣などの周辺地域といかなる連携をとっているのか、どのような局面で鹿児島市内との連携をとるのか、についても診療をとおしてして学び、非常に考えさせられました。あらゆる症例に対して最大限の医療資源を投じることは患者さんの利益に全くならず、適切な検査・処置を迅速に行うことこそが持続可能性につながります。そして、それが患者さん・地域への利益につながるということを今後も肝に銘じて診療に当たりたいと思います。

私は小児科研修で出水総合医療センターにまいりましたが、研修期間中は診療科の垣根なく様々な先生にお声掛けいただきました。出水は鹿児島と熊本の県境であるという特性からか、実に多様なバックボーンを持った先生方が多く、鹿児島市内では得られなかった多種多様なお話や知見が得られる毎日は非常に刺激的でした。1か月という短い期間でしたが病院を挙げて教育してくださり、多くの視点や知識を得られたことは望外の喜びでした。

しかし、出水を支える出水総合医療センターでの研修を終えて、まだまだ自分自身の能力では臨床医として地域に貢献できないだろうと力不足を痛感したこともまた事実です。自信を持って医療圏の一翼を担うことを目標に、これからも日々鍛錬を重ねたいと思います。

1か月間と短い間でしたが、私の研修において非常に大切な1か月となりました。関わってくださった方々に報いることができるよう頑張ってみます。

テーマ「一般外来研修を終えて」

初期臨床研修医 西久保 省吾



1か月という短い期間ではありましたが、出水総合医療センター小児科外来研修をさせていただき、大変良い経験になりました。

今まで小児科の患者さんと関わりがあるのは学生実習の際に大学病院の小児科を回った時くらいでした。その時の入院患者さんは血液疾患や腫瘍の患児がほとんどであり、感染症など小児科のコモンな疾患にはほとんど触れる機会がありませんでした。今回の出水総合医療センター小児科の外来研修では、神経、消化器、循環器、呼吸器、内分泌などの一般内科から耳鼻科疾患、皮膚疾患、精神疾患まで様々な主訴の患児がこられ、その診療の幅広さに驚きました。中には先天性心疾患や低出生体重、染色体異常など小児特有の病気を抱えている患児もおりました。そういった様々な主訴に対してそれぞれの問診の取り方から鑑別疾患の挙げ方、治療方針の立て方などの基本的なところから学ぶことができました。その甲斐あってか、今まで小児科に対して何となく苦手意識を感じていましたが、実際に先生方の診察の様子を見て少しずつ苦手意識が和らいでいくのを感じました。

また、患児の保護者の多くは不安を感じているため、重症な患児が来ててもまずは医療者側が落ち着いて対応し、声かけも適度に行って安心させることも重要だと教わりました。今まで自分は病気を診断、治療することにしか意識が向いてなかったため、そういったことにも今後は注意しなければとらないと思いました。他にも、入院時には患児の保護者が付き添いますが、他の兄弟がいる場合、兄弟の面倒を見る人がいるかどうかとも考える必要があり、小児の場合2、3日入院することがとても大変なのだということを知りました。阿久根や長島など市外から来られる患者さんもあり、緊急で入院する際に一度家に荷物を取りに帰ることもあるため、患児だけではなくその家族にも配慮することを忘れないようにしようと思いました。

地域の病院の特徴として、患児が重症で鹿児島市内の病院に搬送する場合、交通手段として自家用車、新幹線、救急車などがありますが、患児の病態や保護者の協力度合いなど考えた上で選択する難しさも感じました。病院に着くまでに時間がかかるため、病態の悪化を防ぐために最低限の処置はできるようにしなければならぬと思いました。私は来年から内科を専攻しますが、地域枠でもあり地方の小児を診察する機会もあるかと思っておりますので、専門分野以外の勉強も怠らないようにしなければならぬと感じました。

御指導くださった先生方・スタッフの皆様方、1か月間大変お世話になりました。この研修での経験を今後に活かしていきたいです。